

自然体験活動指導者養成研修会実施報告書

- 【趣 旨】 自然体験活動の教育的効果を高めるとともに、青少年が安心して安全な体験活動を行えるよう、青少年の体験活動を指導し、小学校等が実施する体験活動に対して、助言・調整を行うことができる全体指導者を養成する。
- 【主催】 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立江田島青少年交流の家
- 【後援】 広島県教育委員会
- 【期 日】 平成25年2月9日（土）～11日（月・祝） <2泊3日>
- 【会 場】 国立江田島青少年交流の家
- 【参加者数】 29名
- 【講師】 広島大学大学院教育学研究科 教 授 林 孝
 まなび工房 代 表 堀江 清二
 大柿自然環境体験学習交流館 館 長 西原 直久
 日本赤十字社広島県支部 救命救急法指導員 村賀 潤子
 国立江田島青少年交流の家 企画指導専門職

【企画・運営のポイント】

- 当交流の家を利用する多くの大学生に本研修の意義や良さを説明し、より多くの指導者を養成できるように、参加を促す。また、参加者が休暇を取得せずに参加できるように、2月の連休を利用し研修を行う。
- 事業全体を通して、常に指導者の視点を意識するように参加者に声がけをすると共に、各講師にも、その点を意識して学べるような講義・演習を行うよう依頼する。
- 参加者同士の学びが円滑に進むように、参加者同士がより親しくなれるようレクリエーション等のプログラムを最初に設定する。
- 江田島の特徴を生かした海のプログラムを取り入れる。
- 多少タイトなスケジュールになるが、参加者が休暇を取得せずに参加できるように、2月の連休を利用し研修を行う。

【活動の実際】

	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
9日 (土)			受付 開講式	【講義・演習】 体験活動の指導法 (企画指導専門職)	昼食	【実習】 自然体験活動の技術 ・海辺の生物観察 (西原)	【講義・演習】 体験活動の指導法 (西原)	【実習】 自然体験活動の技術 ・野外炊飯 (企画指導専門職)	入浴 休憩	～情報交換会～						
10日 (日)		つどい 清掃 朝食 休憩	【実習】 安全管理 ・救急救命法 (赤十字)		昼食	【講義】 学校教育における 体験活動の意義 (林)	【講義】 教育課程と体験活 動の関連性 (林)	つどい 夕食 入浴 休憩	【講義・演習】 体験活動の指導 法 (堀江)							
11日 (月) (祝)		つどい 清掃 朝食 休憩	【講義】 安全管理 ・リスクマネジメント (堀江)	【講義】 プログラ ムの企 画立案 (堀江)	昼食	【演習】 プログラムの企画立案 (堀江)		ふりかえ り 閉講式	17:30解散							



「体験活動の指導法」
アイスブレイク



「学校教育における体験活動の意義」
「教育課程と体験活動の関連性」



「自然体験活動の技術」
野外炊飯



「安全管理」
救急救命法



「体験活動の指導法」
海辺の生物観察の指導法



「自然体験活動の技術」
荒代海岸での生物観察



「体験活動の指導法」
協カゲーム



「安全管理」
リスクマネジメント



「プログラムの企画立案」

【成果とその普及】

- (1) 大学生を中心とした多くの参加者があり、全体指導者に29名が登録した。その中には、教員を目指している大学生も多数おり、将来学校で勤務する際には、今回の研修を長期集団宿泊活動等の活動に活かすことができると思われる。
- (2) 参加者から、「新しい視点で物事を考えるきっかけになった。」、「ただの講義ではなく、体験することが多かったので分かりやすかった。」、「今回学んだことをキャンプや将来に活かしていきたい。」という感想があり、アンケート結果からも100%の満足度を得た。
- (3) 「様々な人に出会え、意見を聞いて良かった。」、「参加者から多くの刺激を受けた。」、「最初にアイスブレイクをしたので、とても仲良くなれ、楽しく活動できて良かった。」等、参加者同士が関わりを深めながら、体験活動の指導法について学ぶことが出来た。